

ロッククリスタル会より除湿機・サーキュレーター寄贈される

土屋 慶丞*

博物館では所蔵資料を長期保存するため、空調設備で館内の温湿度を管理しています。釧路市立博物館の空調設備は、現在の建物が完成した1983(昭和58)年に導入されたものです。空調設備は経年劣化で次第に性能が低下していくため、近年は温湿度管理が求められる資料を保管・展示する場所には除湿機やサーキュレーターを設置するなど、部分空調を導入して対応してきました。しかしながら釧路の気候も開館当時とは変化したこともあり、ここ数年は夏場の高温高湿対策が大きな課題となっていました。

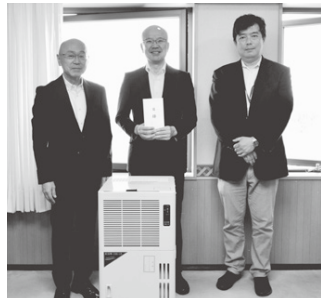
ロッククリスタル会(渡辺仁平会長)より釧路市立博物館の活動振興のために必要な物品を寄贈したいとのご相談を受けたい、館内空調設備の現状についてご説明したところ、持続可能な資料保存環境整備のために除湿機・サーキュレーターをご寄贈いただけることになりました。7月9日に当館応接室にて寄附受納式が行われ、ロッククリスタル会の廣瀬文彦副会長より当館館長の秋葉薫に除湿機(業務用3台・小型1台)とサーキュレーター(大型1台・

小型1台)が引き渡されました。寄贈された除湿機とサーキュレーターは、ただちに館内展示室および収蔵庫に設置して運用を開始しました。

大型除湿機を設置した収蔵庫では、夏場になるとカビ発生の目安となる「温度20～30度かつ湿度60～100%」になることが多くなっていましたが、設置後は湿度が60%未満に低下するなど温湿度環境が大きく改善されたことが確認されています。サーキュレーターは展示室に設置し、本来の目的である館内の空気循環のほか、来館者の方々が涼みに来るなど夏の高温対策としても機能しています。

空調設備という「博物館の裏方」というべきものの重要性を深く理解され、ご寄贈いただいたロッククリスタル会の皆様に心より御礼申し上げます。

*釧路市立博物館



博物館に勤務して

令和7年4月より釧路市立博物館に異動になりました、渡邊 修吾(わたなべ しゅうご)と申します。

私は生まれも育ちも釧路です。私が生まれた時には博物館は鶴ヶ岱公園内にありましたが、鶴ヶ岱公園にはボートに乗りに行くことはあったものの、博物館は見向きもしませんでした。その後、小学校1年生の時に現在の場所に博物館が移転したことを機に、年1回くらいは博物館を訪れるようになりました。しかしながら、博物館ロビーにあるマンモスばかりに気を取られ、他の展示物は流し見程度でした。当時

は博物館の隣にあった科学館にばかり興味を示していた記憶があります。

それから40年以上の月日が経ち、このたび博物館勤務となったことで、当たり前ですが週の後半を博物館内で過ごすこととなりました。そんな日常の中で、幼少期と比べ博物館の展示物等々に対し興味をもつことが多々ありました。もちろん、私自身が生きていく中で感じたこと、学習したことにより色々な視点を持つことができるようになったのも要因の一つかもしれませんが、疑問に思ったことや興味を持ったことに対して、都度、学芸員に確認できることが一番であると思いました。自分が興味や疑問を持ったことがあったとしても、何となくわかった気になっていたものが、学芸員との日常会話の中で具体的な背景も含めて説明してもらうことで様々な発見があり、興味を持つことができたと思っています。

そんな貴重な経験をさせてもらっていることに感謝しています。

博物館では、定期的に様々な企画展やミニ展示を開催しています。テーマに沿って普段は展示されないような資料も展示され、より深く知る機会になると思います。また、メールでのやり取りなどが中心となりますが、展示物やそれに関連する質問も博物館では受け付けています。

しかし、これらの周知が浸透していないと私自身思っています。新たな知識を持って改めて訪れる博物館は、より一層有意義な体験になると私自身は思いますので、皆さんにどのように周知できるか知恵を振り絞りながら日々精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(渡邊 修吾)